政策番号	27	政策分野	くらしの水

基本方針	市民のライフライン（生活線）として重要な水道・下水道は，河川とともに，都市の基盤施設であると同時に琵琶湖・淀川水系における水循環の一翼を担い，流域全体の水環境の保全に大きな役割を果たしている。安全・安心で良質な水道水を安定的に供給する水道，大雨による浸水被害からまちを守るとともに快適で衛生的な都市生活を支える下水道，治水対策を推進し，あわせて都市に親水空間を生み出す河川について，“くらしの水”に関する機能の充実・向上を図りながら，未来の京都に引き継いでいく。

担当局	上下水道局	共管局	建設局

政策に関係する主な分野別計画等	京（みやこ）の水ビジョン，京都市上下水道事業中期経営プラン(2013-2017) 京都市水共生プラン，京都市河川整備方針

政策の評価

1　客観指標評価

	政策の客観指標評価	23年度評価値	32年度目標値	27年度	28年度	29年度評価 前回値	最新値	目標値	達成度	評価
1	主要管路の耐震適合性管の割合(%)	39.8	―	a	c	46.9	48.5	48.7	99.6%	b
2	雨水整備率(10年確率降雨対応)(%)	17.4	―	a	a	22.1	23.6	23.6	100.0%	a
3	高度処理人口普及率(下水道)(%)	47.9	―	a	a	51.3	53.2	53.2	100.0%	a
4	平成16年記録的豪雨時の河川浸水被害箇所解消率(%)	87.6	100.0	a	a	91.1	92.7	92.8	99.9%	b
5	水共生の取組の進捗率(レーダーチャート面積)(%)	163.9	205.1	-	-	152.9	163.9	157.2	104.3%	a
6	カビ臭から見たおいしい水達成率(%)	65.0	－	a	a	70	70	50	140.0%	a
7	目標水質達成率(BOD)(%)	98.7	97.7	a	b	97.5	97.7	97.7	100.0%	a
				a	a					a

施策番号	施策の客観指標評価 施策名	評価 27年度	28年度	29年度
2701	安全･安心な水道･下水道の構築(4指標)	a	a	a
2702	環境負荷の少ない水道･下水道の構築(2指標)	a	a	a
2703	水道･下水道の機能維持･向上(3指標)	a	a	a
2704	市民ニーズに対応した上下水道サービスの推進(2指標)	a	a	a
2705	上下水道事業の経営基盤の強化･安定(3指標)	a	a	b
2706	水辺環境の整備(1指標)	a	a	b
2707	水共生の取組の推進(5指標)	a	a	a
	(7施策平均)	a	a	a

政策の客観指標総合評価 (政策の客観指標評価:施策の客観指標評価＝1:0.5)	27年度	28年度	29年度
	a	a	a

2－1　市民生活実感評価

番号	設問	評価 27年度	28年度	29年度
1	京都の上下水道は，安全で安心していつでも利用できる。	a	a	a
2	大雨が降っても，身近な地域で浸水の被害は起こっていない。	b	b	b
3	京都の河川は水がきれいで，水辺に親しみやすい。	a	a	b
4	水道水がおいしくなるなど，京都の上下水道サービスは向上している。	b	b	b
5	京都の上下水道は，経営が安定しており，将来も安心して使い続けることができる。	b	a	a
6	水や水辺環境が大切にされるなど，水と共に生きる意識が高まっている。	b	b	b
	政策の市民生活実感調査総合評価	a	a	a

2－2　政策の重要度(27政策における市民の重要度)

27年度		28年度		29年度	
順位	%	順位	%	順位	%
2	90.9%	2	92.6%	2	93.0%

3　総合評価

A	政策の目的が十分に達成されている		
【客観指標総合評価】 ☑ ｂ評価以上であり，施策の効果が客観指標に表れている。 ☐ ｃ評価以下であり，次の原因が考えられる。 【市民生活実感調査総合評価】 ☑ ｂ評価以上であり，施策の効果が市民の実感に表れている。 ☐ ｃ評価以下であり，次の原因が考えられる。 【総括】 ・主要管路の耐震化や浸水対策，河川改修等の「くらしの水」に関する事業を着実に推進したことにより，取組が概ね目標どおり進捗し，市民の実感でも高く評価されている。 ・こうしたことを総合的に勘案し，この政策の目的は，十分に達成されていると評価する。		28年度	A
		27年度	A

今後の方向性の検討

＜この政策を構成する施策とその総合評価（客観指標評価＋市民生活実感評価）＞

施策番号	施策名	総合評価		
		27	28	29
2701	安全・安心な水道・下水道の構築	A	A	A
2702	環境負荷の少ない水道・下水道の構築	A	A	A
2703	水道・下水道の機能維持・向上	A	A	A
2704	市民ニーズに対応した上下水道サービスの推進	B	B	B
2705	上下水道事業の経営基盤の強化・安定	A	A	B
2706	水辺環境の整備	A	A	B
2707	水共生の取組の推進	B	B	B

＜今後の方向性＞

①安全・安心な水道・下水道の構築

・京都市上下水道事業中期経営プラン（2013－2017）（以下プランという。）に基づき，引き続き老朽化した水道・下水道施設の改築更新や耐震化を計画的・効率的に推進する。

②環境負荷の少ない水道・下水道の構築

・プランに基づき，引き続き下水高度処理施設の整備，合流式下水道の改善，施設規模適正化による効率化や改築修繕時の省エネルギー機器の導入等を進める。

③水道・下水道の機能維持・向上

・プランに基づき，引き続き老朽化した水道・下水道施設の改築更新や耐震化を計画的・効率的に推進する。

④市民ニーズに対応した上下水道サービスの推進

・プランに基づき，引き続き「他都市と比べ安価な上下水道料金水準を実現」するとともに，お客さまのニーズに合わせたサービスを提供できるよう営業所を再編する。

⑤上下水道事業の経営基盤の強化・安定

・プランに基づき，将来にわたって安定した経営が行えるよう，各種業務における民間委託化の推進や企業債残高の縮減等に努め，より一層効率的・効果的な事業運営を行うことで，経営基盤の強化に努める。

⑥水辺環境の整備

・平成25年度に策定した，整備プログラムに基づき，引き続き河川改修等の浸水対策を実施するとともに，市民に身近な水辺環境の創出をより一層推進していく。

⑦水共生の取組の推進

・「京都市水共生プラン」及び「京都市河川整備方針」に基づき，高瀬川再生プロジェクトをはじめとした河川改修や親水性のある水辺空間の整備，水共生学習会の実施，雨水浸透施設及び貯留施設の設置など，市民の水に関する意識が高まるよう，取組を引き続き推進する。

政策名	27	くらしの水

指標名	主要管路の耐震適合性管の割合（%）

担当部室	水道部	連絡先	６７２－７７４３

１　指標の説明

主要管路（導水管，送水管及び配水管（φ200mm以上））の総延長に対する耐震適合性管の延長の割合

２　指標の意味

安全・安心な水を安定供給するための水道主要管路の耐震化状況を示す指標

３　算出方法・出典等

算出方法：耐震適合性管路延長÷主要管路総延長×100
出典：局独自に設定（事業担当課調べ）

４　数値

10年後（平成32年度）の目標値	平成23年度評価値	平成32年度目標値	根拠
	39.8	―	

	前回数値	最新数値	推移	単年度目標値		
	27年度	28年度		数値	根拠	達成度
数値	46.9	48.5	1.6ポイント増	48.7	上下水道局運営方針・事業推進方針	99.6%

	全国順位	中長期目標			
		数値	目標年次	達成度	根拠
数値		49.5	29年度	87.3%	京都市上下水道事業　中期経営プラン(2013-2017)※達成度は改善度を記載＝（最新数値-平成24年度数値（41.6））／（中長期目標数値-平成24年度数値（41.6））

備考	改善度（28年度） 88.9＝（（48.5－46.9）／（48.7－46.9））×100

５　評価基準

最新数値と目標値を比較して
a：目標値以上
b：目標値未満で改善度80%以上100%未満
c：目標値未満で改善度50%以上80%未満
d：目標値未満で改善度50%未満
e：現状維持

６　基準説明

目標値を上回る可能性もあるため，目標値以上を最高のaとし，目標値に達しなくても改善度によりそれぞれb，c，dに，現状維持であればeと設定した。
※改善度＝（最新数値-前回数値）／（目標値-前回数値）×100

７　評価結果

27	28	29
a	c	b

指標名	雨水整備率（10年確率降雨対応）（%）

担当部室	下水道部	連絡先	６７２－７８３９

１　指標の説明

事業計画区域面積に対する10年確率降雨対応浸水対策済区域面積の割合（大雨でも浸水がなく，安心して暮らせるまちにするため，10年確率降雨（62㎜／時）に対応した浸水対策を進めている。）

２　指標の意味

大雨による浸水被害からまちを守る下水道事業（浸水対策）の進捗状況を示す指標

３　算出方法・出典等

算出方法：浸水対策済区域面積÷公共下水道事業計画区域面積×100

４　数値

10年後（平成32年度）の目標値	平成23年度評価値	平成32年度目標値	根拠
	17.4	―	

	前回数値	最新数値	推移	単年度目標値		
	27年度	28年度		数値	根拠	達成度
数値	22.1	23.6	1.5ポイント増	23.6	上下水道局運営方針・事業推進方針	100.0%

	全国順位	中長期目標			
		数値	目標年次	達成度	根拠
数値		28.0	29年度	48.2%	京都市上下水道事業　中期経営プラン(2013-2017)※達成度は改善度を記載＝（最新数値-平成24年度数値（19.5））／（中長期目標数値-平成24年度数値（19.5））

備考	改善度（28年度） 100.0＝（（23.6－22.1）／（23.6－22.1））×100

５　評価基準

最新数値と目標値を比較して
a：目標値以上
b：目標値未満で改善度80%以上100%未満
c：目標値未満で改善度50%以上80%未満
d：目標値未満で改善度50%未満
e：現状維持

６　基準説明

目標値を上回る可能性もあるため，目標値以上を最高のaとし，目標値に達しなくても改善度によりそれぞれb，c，dに，現状維持であればeと設定した。
※改善度＝（最新数値-前回数値）／（目標値-前回数値）×100

７　評価結果

27	28	29
a	a	a

政策名	27	くらしの水

指標名	高度処理人口普及率（下水道）（%）

担当部室	下水道部	連絡先	６７２－７８３９

１　指標の説明

下水の高度処理の普及割合（京都市では，市内河川だけでなく，阪神圏の水道水源である淀川や閉鎖性水域である大阪湾の水質保全のため，通常の下水処理では除去しにくい窒素やりんの除去を目的とした高度処理を行っている。）

２　指標の意味

流域全体の水環境を保全する下水道事業(高度処理)の進捗状況を示す指標

３　算出方法・出典等

算出方法：高度処理実施区域内人口÷高度処理が必要な区域の人口×100

４　数値

10年後(平成32年度)の目標値	平成23年度評価値	平成32年度目標値	根拠
	47.9	―	

	前回数値	最新数値	推移	単年度目標値		
	27年度	28年度		数値	根拠	達成度
数値	51.3	53.2	1.9ポイント増	53.2	上下水道局運営方針・事業推進方針	100.0%

	全国順位	中長期目標			
		数値	目標年次	達成度	根拠
数値		53.2	29年度	100.0%	京都市上下水道事業　中期経営プラン(2013-2017)※達成度は改善度を記載＝（最新数値-平成24年度数値（48.0）／（中長期目標数値-平成24年度数値（48.0））

備考	改善度（28年度） 100.0＝（（53.2－51.3）／（53.2－51.3））×100

５　評価基準

最新数値と目標値を比較して
a：目標値以上
b：目標値未満で改善度80%以上100%未満
c：目標値未満で改善度50%以上80%未満
d：目標値未満で改善度50%未満
e：現状維持

６　基準説明

目標値を上回る可能性もあるため，目標値以上を最高のaとし，目標値に達しなくても改善度によりそれぞれb，c，dに，現状維持であればeと設定した。※改善度＝（最新数値-前回数値）／（目標値-前回数値）×100

７　評価結果

27	28	29
a	a	a

指標名	平成16年記録的豪雨時の河川浸水被害箇所解消率（%）

担当部室	土木管理部	連絡先	２２２－３５９１

１　指標の説明

平成16年の記録的豪雨の際に河川からの溢水による浸水被害があった河川の改修実施率

２　指標の意味

浸水被害の低減に向けた河川の整備状況を示す指標

３　算出方法・出典等

算出方法：H16浸水被害河川整備延長÷H16浸水被害河川計画延長×100
出典：事業担当課調べ

４　数値

10年後(平成32年度)の目標値	平成23年度評価値	平成32年度目標値	根拠
	87.6	100	100%の達成を目指す。

	前回数値	最新数値	推移	単年度目標値		
	27年度	28年度		数値	根拠	達成度
数値	91.1	92.7	1.6ポイント増	92.8	中長期目標までの残年数内に目標を達成するために当該年度に達成すべき数値	99.9%

	全国順位	中長期目標			
		数値	目標年次	達成度	根拠
数値		100	32年度	92.7%	平成16年度浸水被害発生河川における中長期目標年度の目標改修率

備考	

５　評価基準

最新値をx，(単年度目標値-前回値)をyとしたとき，
a：単年度目標値≦x
b：前回値+y*2/3≦x＜単年度目標値
c：前回値+y*1/3≦x＜前回値+y*2/3
d：前回値＜x＜前回値+y*1/3
e：x=前回値

６　基準説明

目標値を達成することは不可能ではないが，財政状況の寄与度が高いことから，単年度目標値以上の達成をaとし，5段階に基準を設定した。

７　評価結果

27	28	29
a	a	b

政策名	27	くらしの水

指標名	水共生の取組の進捗率（レーダーチャート面積）（%）

担当部室	土木管理部	連絡先	２２２－３５９１

１　指標の説明

水に関する取組の目標進捗率

２　指標の意味

水共生の取組の進捗状況を示す指標

３　算出方法・出典等

算出方法：施策「水共生の取組」の5つの客観指標の進捗率をレーダーチャートに変換し，目標進捗率に対する面積比で算出
出典：事業担当課調べ

４　数値

10年後(平成32年度)の目標値	平成29年度評価値	平成32年度目標値	根拠
	163.9	205.1	100%の達成を目指す。

	前回数値	最新数値	推移	単年度目標値		
	27年度	28年度		数値	根拠	達成度
数値	152.9	163.9	11.0ポイント増	157.2	各指標の当該年度の目標進捗率をレーダーチャートに変換したときの面積	104.3%

	全国順位	中長期目標			
		数値	目標年次	達成度	根拠
数値					

備考	水共生学習会の実施の目標を年2件から年4件に変更した指標に修正。

５　評価基準

最新数値の目標値に対する達成度が
a：100%以上
b：80%以上～100%未満
c：60%以上～80%未満
d：40%以上～60%未満
e：40%未満

６　基準説明

100%以上の達成をaとし，20%刻みで等間隔に基準を設定した。

７　評価結果

27	28	29
-	-	a

指標名	カビ臭から見たおいしい水達成率（%）

担当部室	技術監理室	連絡先	７７１－５３８０

１　指標の説明

水道水におけるカビ臭原因物質(※)の年間最大濃度（実績値）の水道水質基準値（10ng/L)に対する適合割合
※ジェオスミン及び2-メチルイソボルネオール

２　指標の意味

水道水のおいしさを示す１つの指標で，高い方が良い。

３　算出方法・出典等

算出方法：[(1-ジェオスミン最大濃度/水質基準値)+(1-2-メチルイソボルネオール最大濃度/水質基準値)]/2×100
出典：水道事業ガイドライン

４　数値

10年後(平成32年度)の目標値	平成23年度評価値	平成32年度目標値	根拠
	65	－	

	前回数値	最新数値	推移	単年度目標値		
	27年度	28年度		数値	根拠	達成度
数値	70	70	増減なし	50	水安全計画の管理目標値（5ng/L）による算出値（50%）を基に設定	140.0%

	全国順位	中長期目標			
		数値	目標年次	達成度	根拠
数値					

備考	

５　評価基準

最新数値の目標値に対する達成度が
a：100%以上
b：75%以上100%未満
c：50%以上75%未満
d：25%以上50%未満
e：25%未満

６　基準説明

達成度100%をa評価とし，以下25%刻みに基準を設定した。

７　評価結果

27	28	29
a	a	a

政策名	27	くらしの水

指標名	目標水質達成率（ＢＯＤ）（%）

担当部室	技術監理室	連絡先	６９１－８５４５

１　指標の説明

1年間に実施した水質調査において，ＢＯＤ（※）における目標水質を達成した比率
※微生物が水中の有機物を分解するときに消費する酸素の量（生物化学的酸素要求量）。有機物等による水質汚濁の指標として用いられ，この値が大きいほど水の汚れが進んでいることを意味する。

２　指標の意味

河川の環境基準の主要項目であるＢＯＤについて，水環境保全センターからの放流水の状態を示す指標

３　算出方法・出典等

算出方法：目標(水質達成回数／水質調査回数)×100(%)
出典：下水道維持管理サービス向上のためのガイドライン

４　数値

10年後(平成32年度)の目標値	平成23年度評価値	平成32年度目標値	根拠
	98.7	97.7	下水道維持管理サービス向上のためのガイドライン

	前回数値	最新数値	推移	単年度目標値		
	27年度	28年度		数値	根拠	達成度
数値	97.5	97.7	0.2ポイント増	97.7	下水道維持管理サービス向上のためのガイドライン	100.0%

	全国順位	中長期目標			
		数値	目標年次	達成度	根拠
数値					

備考	

５　評価基準

最新数値と目標値を比較して，
ａ：目標値（97.7%）以上
ｂ：90%以上目標値未満
ｃ：85%以上90%未満
ｄ：80%以上85%未満
ｅ：80%未満

６　基準説明

目標値を上回る可能性もあることから，目標値以上を最高のａとし，以下5段階に基準を設定した

７　評価結果

27	28	29
a	b	a